

博士論文審査要旨

論文審査担当者

主査	明星大学	教授	梅谷忠勇
委員	明星大学	教授	島田博祐
委員	明星大学	教授	星山麻木
委員	東京学芸大学	教授	伊藤友彦

申請者氏名 阿部 敬信

論文題目 聴覚障害教育における日本手話・日本語バイリンガル教育の研究

(論文審査の結果の内容)

近年、聴覚障害児への教育方法は、大変多様化してきているのが現状である。中でも、自然言語である手話言語と音声言語の書き言葉によるバイリンガル・アプローチは手話言語が書き言葉を持たないことから、手話言語の能力を向上させることが、直接、音声言語の書き言葉の習得に結びつくのかについては議論がある。本論文は、聴覚障害教育における日本手話・日本語バイリンガル・アプローチによる教育を行うろう学校小学部児童の認知的発達の水準と特性、日本手話と日本語の言語発達の実態やそれらを支える実際の授業における教室談話内容を明らかにすることを通して、日本手話・日本語バイリンガル・アプローチによる教育成果とわが国の聴覚障害教育に資する知見を考察した研究であり、研究の独自性と聴覚障害教育における実践的意義は高く評価できる。

本論文は、序論、本論および結論の計10章から構成されている。

序論の第1章から第2章では、日本手話が自然言語であり、ろう児は日本語を第二言語として学んでいくことを明らかにするとともに、聴覚障害教育における教育方法について概観することにより、聴覚障害教育におけるバイリンガル・アプローチに係る先行研究の知見を整理し、本研究における問題

の所在が述べられている。第3章では、本研究の目的と研究全体の構成が述べられている。わが国で唯一の日本手話・日本語バイリンガル・アプローチによる教育を行うろう学校で学ぶ児童の認知発達と日本語の言語発達の実態、授業における教室談話分析を通して、このアプローチの教育効果について検討することが目的である。

本論の第4章では、DN-CAS認知評価システムを用いて、日本手話・日本語バイリンガル・アプローチで学ぶ児童の認知発達水準と認知処理過程の特性を明らかにしている。同時に、同一検査を特別支援学校(聴覚障害)小学部で学ぶ児童に対しても実施し、認知発達の実態を明らかにしている。第5章では、絵本「Frog, Where Are You?」のstorytellingを日本手話・日本語バイリンガル・アプローチで学ぶ児童に実施し、日本手話による語りを量的・質的に分析して日本手話の談話構造の発達を明らかにしている。第6章は、日本手話・日本語バイリンガル・アプローチで学ぶ第3学年～第6学年の小学部児童を対象に絵本の図版を用いた課題作文を実施し、第二言語としての日本語の発達について検討している。第7章では、特別支援学校(聴覚障害)小学部第1学年～第5学年の国語科授業において、教師が用いる視覚的コミュニケーション手段である日本語対应手話や指文字の活用に関して検討を加えている。さらに、第8章では、日本手話・日本語バイリンガル・アプローチによる教育を行うろう学校小学部の理科、社会、日本語授業における教室談話について、日本手話の視覚的言語構造を生かした指導のあり方という視点から分析、考察している。

結論となる第9章では、研究全体の要約と総合的考察が述べられるとともに、わが国の聴覚障害教育への提言と今後の課題が提出されている。

本研究を通して、日本手話・日本語バイリンガル・アプローチによる教育は、学年相当の認知力を発達させること、特に日本手話においては、学習においても日本手話の視覚的かつ言語的特性を生かした指導を行うことで、「学習言語」レベルまでの発達を促進させること、児童は第二言語である日本語においては、日本語を読んで理解し、その意味内容を日本手話に翻訳することができるまでに発達していることが見出された。

手話言語と音声言語の書き言葉によるバイリンガル・アプローチ教育の成果を明らかにした研究は、本研究が初めてであり、わが国の聴覚障害教育における研究において貴重な示唆を提出していること、これらの研究の一部は既に学術雑誌に掲載されていることが認められ、審査委員からの一致した評価を得た。なお、各審査委員から本論文の発展的研究のための助言が与えられた。

よって、本研究は博士(教育学)の学位を授与するに十分価値あるものと認める。

(試験および試問の結果の要旨)

最終試験および諮問は、学位申請論文を中心として、関連ある科目または専門分野について口頭により実施した。

まず、はじめに当該論文の口頭発表を40分、質疑を20分行った。次いで、審査委員4名による審査委員会を10分行った。各審査委員からの、研究対象である児童の選別、研究方法の妥当性、データの分析・検定の手法、結果の整理、結論の内容、バイリンガル・アプローチ教育における授業の展開をめぐって、さらに今後の研究課題等についての質疑に対して、特別支援教育の専門的知識、特に聴覚障害教育の専門知識に基づいた適切な回答があった。また、公聴会での学位申請論文の口頭発表後の質疑にも適切に対応した。

以上の口頭発表および審査委員からの質問に対する応答に基づき、審査委員全員で慎重に審査した結果、合格と判定した。